

# 3. 実施内容

---

Contents



## 【1】 会議・総会等

### 1. 青森COC+推進機構会議・青森COC+推進機構総会

平成28年6月30日(木)、「青森COC+推進機構会議」及び「青森COC+推進機構総会」を弘前市内で開催した。

青森COC+推進機構は、平成27年度に文部科学省「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」に採択された「オール青森で取り組む『地域創生人財』育成・定着事業」を統括するために設立された、青森県内の大学・高専計10校、青森県、青森市、弘前市、八戸市、むつ市の代表者からなる組織で、弘前大学長が機構長を務める。

総会に先立って開催された「青森COC+推進機構会議」には、機構長の佐藤弘前大学長、副機構長の花田青森中央学院大学長と岡田八戸工業高等専門学校長、監事の上泉青森県立保健大学長と大谷八戸学院大学長、吉川COC+推進コーディネーターの6名が出席し、総会に諮る事項についての確認と審議を行った。

続いて開催された「青森COC+推進機構総会」には、機構員である各大学長・校長・自治体関係者ら16名が出席し、佐藤機構長の挨拶の後、平成27年度の実施状況報告、監事監査報告やCOC+推進コーディネーターからの所感、平成28年度の計画及び予算説明等がなされ、事業目標達成に向けての取組が十分に実施されていることを確認した。

### 【青森COC+推進機構会議】



【青森COC+推進機構総会】



## 2. ブロック会議

ブロック事業では、青森県を青森市・弘前市・八戸市・むつ市を中心とした4つのブロックに分け、それぞれブロックを核とした事業を展開する。このため、各ブロックごとに大学・自治体・企業等の担当者によるブロック会議を開催し、各ブロックの地域の特性を踏まえた現状や課題についてあらためて情報共有と共通認識を図り、当該特性を踏まえた事業を検討した。

平成28年度に開催された各ブロック会議は以下のとおり。

### ■ 青森ブロック

日 時： 平成28年7月4日(月) 16:00～17:30

場 所： ホテル青森 4階 椿の間

- 議 事： 1. 平成27年度COC+活動実績報告について  
2. 平成28年度事業計画について  
3. その他(意見交換)

日 時： 平成28年12月2日(金) 13:30～15:00

場 所： ホテル青森 4階 桜の間

- 議 事： 1. 今年度の取り組み状況及び今後の予定について  
2. COC+における青森県内就職率実績と事業目標値について  
3. 青森県の大学生が作る、青森県大好きマガジン「SCENE」について  
4. 起業セミナーについて  
5. その他(意見交換)

日 時： 平成29年3月16日(木) 13:30～15:00

場 所： ホテル青森 4階 椿の間

- 議 事： 1. 平成29年度事業計画(COC+青森ブロック)について  
2. 女子学生のキャリア支援プログラム開発の取組状況について(青森県立保健大学)  
3. 平成29年度県民局重点枠事業について(東青県民局地域連携部)  
4. 平成29年度青森市主な取組について(青森市政策推進課)  
5. その他(意見交換)





## ■ 弘前ブロック

- 日時： 平成28年5月26日(木) 13:00～14:30  
場所： 弘前大学 総合教育棟1階 共用会議室  
議事： 1. 構成員自己紹介  
2. 平成27年度COC+事業取組状況について  
①概要説明  
②各大学の取組状況  
3. 平成28年度ブロック事業について  
4. 意見交換  
5. その他

- 日時： 平成28年12月9日(金) 9:30～11:00  
場所： 弘前大学 総合教育棟1階 共用会議室  
議事： 1. 平成28年度弘前ブロック事業進捗状況について  
2. 弘前ブロック担当者会議について  
3. 県内定着に関連した取り組みについて  
青森県中南県民局／弘前市／弘前商工会議所  
4. 意見交換  
5. その他



## ■ 八戸ブロック

- 日時： 平成28年4月14日(木) 10:00～12:00  
場所： 八戸工業高等専門学校 管理棟3階 大会議室  
議事： 1. 平成28年度各校担当者紹介  
2. 平成28年度ブロック事業について  
①イノベーション・ベンチャーコンテスト(仮)  
②あおもり県南地域企業内容説明会(仮)  
3. その他

- 日 時： 平成28年11月7日(月) 15:00～16:00  
 場 所： 八戸工業高等専門学校 管理棟3階 大会議室  
 議 事： 1. 「あおもりの企業の魅力を再発見！あおもり県内企業内容説明会」アンケート集計結果について  
 2. イノベーション・ベンチャー・アイデアコンテスト2016～地域を元気にする学生の提案～募集要項(案)」について  
 3. その他

- 日 時： 平成29年2月23日(木) 16:00～17:00  
 場 所： 八戸工業高等専門学校 管理棟3階 大会議室  
 議 事： 1. 「イノベーション・ベンチャー・アイデアコンテスト2016」アンケート集計結果について  
 2. 平成29年度八戸ブロック事業計画書・予算計画書について  
 3. 平成29年度「企業内容説明会」・「イノベーション・ベンチャー・アイデアコンテスト」日程調整について  
 4. その他

## ■ むつブロック

- 日 時： 平成28年4月22日(金) 13:00～14:30  
 場 所： むつ市役所本庁舎 第1会議室  
 議 事： 1. 平成28年度COC+むつブロック事業の提案について  
     ①弘前大学からの提案  
     ②青森中央学院大学からの提案  
     ③むつ市からの提案  
     ④その他  
 2. 平成28年度COC+むつブロック事業「年間計画(案)」について

- 日 時： 平成28年5月31日(火) 13:30～15:30  
 場 所： むつ市役所本庁舎 第4会議室  
 議 事： 1. COC+むつブロック会議の位置づけについて  
 2. 個別事業の検討状況について  
     ①弘前大学  
     ②青森中央学院大学  
 3. 平成28年度COC+むつブロック事業について  
     ①むつブロック事業一覧  
     ②むつブロック事業に係る予算について

むつブロックでは、弘前大学、青森中央学院大学、むつ市の担当者によるワーキンググループを設置し、事業実施に関する検討や意見交換を行った。

平成28年度のむつブロックのワーキンググループはテレビ会議システムを利用して、平成28年6月21日(火)、7月5日(火)、7月26日(火)、9月8日(木)、10月18日(火)、平成29年1月16日(月)の計6回開催した。



### 3. コーディネーター会議

平成28年5月30日(月)、本事業推進のための進捗管理、連絡調整等を遂行するCOC+推進コーディネーターがコーディネーター会議を主宰し、各ブロックの進捗状況及び今後の予定について意見交換を行った。

- 日時： 平成28年5月30日(月) 14:00～16:00  
場所： 青森国際ホテル 本館5階 金扇の間  
議事： 1. 平成27年度COC+事業取組状況について  
2. 平成28年度ブロック事業について  
3. 意見交換  
4. その他





#### 4. コーディネーター・マネージャー連絡会議

平成28年11月18日(金)、コーディネーター・マネージャー連絡会議を開催した。COC+推進コーディネーターと各ブロック・コーディネーター、各雇用創出連携プロジェクトのプロジェクト・マネージャーが出席し、地域ブロックごとに実施する就職・起業支援事業と全県的に大学研究者と企業が連携して進める雇用創出事業の進捗状況を確認した。

- 日 時： 平成28年11月18日(金) 13:30～16:30  
場 所： 青森国際ホテル 別館4階 むつ湾  
議 事： 1. 各事業における進捗状況について  
2. その他



## 【2】 教育プログラム開発

### 1. 教育プログラム開発委員会の開催

平成29年2月16日(木)、「教育プログラム開発委員会」を弘前大学総合教育棟2階大会議室にて開催し、事業協働機関である大学等、自治体、企業・NPO等から選出された委員19名が出席した。

教育プログラム開発委員会は弘前大学理事(教育担当)を委員長とし、地域創生人財の育成に係る「共育型インターンシップ・プログラム」、「女子学生のキャリア支援プログラム」、「起業実行プログラム」などの教育プログラムを開発するために設置され、各プログラムについてワーキンググループを形成する。

2回目となる今回の委員会では、各ワーキンググループごとの分科会が行われ、平成28年度の進捗状況の報告や事業終了時までの到達目標の検討を行い、活発な議論が交わされた。その後、全体会において各教育プログラム開発についての進捗状況と次年度の活動計画が報告された。



## 2. 共育型インターンシップ・プログラム

### (1) ワーキンググループの開催

共育型インターンシップ・プログラムのワーキンググループ主催校である青森中央学院大学が主体となって、ワーキンググループを2回開催し、問題意識やゴールイメージを共有し、インターンシップの具体化を進めた。

#### 第1回ワーキンググループ会議

日時： 平成28年6月3日(金) 16:00～17:30

場所： ホテル青森 4階 桃の間

- 議事： 1. 今年度ワーキンググループが取り組む内容及び各メンバーの役割について  
2. 「共育型インターンシップ～学生と共に育つ企業のためのガイドブック～」の発行について  
3. その他(意見交換)

#### 第2回ワーキンググループ会議

日時： 平成28年12月21日(水) 13:00～14:30

場所： 青森国際ホテル 5階 銀扇の間

- 議事： 1. 平成28年度の取り組み状況及び実績について  
2. 平成29年度取り組みの基本的方向性について  
3. その他(意見交換)

### (2) ガイドブック作成

共育型インターンシップ・ワーキンググループでは、共育型インターンシップ学生を受け入れる企業のために、①一般的な短期インターンシップとの違いや特徴及び企業・学生のメリット②共育型インターンシップの事前準備から中間研修、終了・振り返りまでの実際の流れ③経営者の本気度、課題・具体的な活動内容の確認及び成果目標の設定など、全体のプロジェクト設計の手順④社内の受入体制やリスク対策などの環境整備など、実施にあたっての事前準備のチェックポイントを解説した共育型インターンシップ「学生と共に育つ企業のためのガイドブック」をメンバーであるNPO法人プラットフォームあおもりの制作協力のもと作成した。





### (3) 企業向け共育型インターンシップフォーラム

共育型インターンシップが地域に提案されている背景と目的を地域の企業に説明し、実施事例を報告して理解と協力を得るため、平成28年11月4日(金)に「企業向け共育型インターンシップフォーラム」をホテル青森で開催し、県内企業・自治体関係者、大学関係者など43名が参加した。

COC+事業概要の説明後、事例紹介として株式会社青森テレビの「共育型インターンシップ導入の狙い」と、株式会社若山経営の「COC+事業における当社の取組」が示された。また、共育型インターンシップの流れ及び全体のプログラム設計について、「学生と共に育つ企業のためのガイドブック」を活用したワークショップが行われた。



### (4) 共育型インターンシップ受入企業／団体向け勉強会

平成28年11月9日(水)、弘前大学総合教育棟1階共用会議室において、「共育型インターンシップ受入企業／団体向け勉強会」を開催した。

勉強会では、長年にわたり中長期実践型インターンシップを実施してきた、NPO法人ETIC.(エティック)の伊藤淳司氏を講師として招き、「受入企業の実践型インターンシップ導入における提供価値とメリット・デメリットを体感する」と題した講演が行われた。NPO法人ETIC.は、1993年より活動を開始し、これまでに3,000名以上の学生が事業に参画している。

その後、導入を検討している3つの受入企業／団体を対象に、インターンシップのプロジェクト設計を行った。プロジェクトの設計は、参加者が3グループに分かれてワークショップ形式で実施した。最後に、設計した3つのプロジェクトを発表し、それぞれのプロジェクトに対する伊藤淳司氏の講評、及び参加者による活発な意見交換が行われた。



### (5) 共育型企業インターンシップ学生募集説明会

平成28年12月7日(水)、弘前大学総合教育棟4階405講義室において、「共育型企業インターンシップ学生募集説明会」を開催し、学生約30名が参加した。

インターンシップ受入企業は、下北郡東通村で印刷物制作やイベント企画を主要事業としている「有限会社コスモクリエイト」と、青森市のITベンチャー企業でソフトウェア開発やコンピュータのコンサルティング等を主要事業としている「株式会社リンクステーション」の2社である。

説明会では、まず、中長期間のインターンシップのイメージを参加学生に持ってもらうため、既にインターンシップに参加した学生3名による体験談の報告を行った。次に、企業2社の担当者がインターンシッププロジェクトの説明を行い、会社の紹介やプロジェクトの内容が示され、またどのような人材が必要なのかの説明がなされた。その後は学生による質疑応答が行われ、説明会の終了後も、積極的に企業担当者や大学担当者に質問している学生の姿が見られた。





### 3. 女子学生のキャリア支援プログラム

#### (1) ワーキンググループの開催

下記のとおり開催し、事業計画や調査結果の分析などについて、協議・意見交換を行った。

- ①開発・実施委員会(学内小委員会)を、4月18日(月)、8月10日(水)、10月20日(木)の3回開催した。
- ②開発・実施委員会(学内委員会)を、6月13日(月)、1月10日(火)、3月17日(金)の3回開催した。
- ③教育プログラムWG会議を、8月4日(木)、10月25日(火)、2月7日(火)の3回開催した。



#### (2) 女子学生のキャリア・生活指向と地元定着の関連を知るための実態調査

平成27年度に実施したインタビュー調査の結果、学生が「文化・地域への価値」「人とのつながり」「仕事・職場への価値」「将来設計」の間でバランスを取り、自分が重要と感じている事柄を吟味し、卒業後の生き方を決めていると分析し、これをアンケート調査の項目やプログラム標準モデル(原案)のテーマとして反映させた。

また、視察調査では、COC+事業の先進・特徴的な事例を調査することによってプログラム開発の参考となるデータ等を得ることができた。

- 平成27年度卒業生、在学生(WG参加校)へのインタビューの取りまとめと分析
- ※分析結果については、「6. 参考資料(83～84ページ)」を参照
- 卒業生、在学生(WG参加校)へのインタビュー調査 (20名)
- 香川県立保健医療大学・高知大学への視察調査
- アンケート調査：平成29年1月～3月初旬にWG参加校で実施・集計 (約490部回収)

#### (3) 「くらす?はたらく」シリーズsession1 ～女社会?男社会～

学生に自分の「生活」と「キャリア」について、深く考察・理解した上で地元定着を選択してもらうことを目的とする教育プログラムとして「くらす?はたらく」シリーズを企画した。

第1弾として「～女社会?男社会～」を実施し、「社会に出て自分が大切にしたいこと」をテーマにワールドカフェ形式にて行い、参加学生が県内で働くゲストスピーカーとコーディネーターから多様な経験談を聞くことができるよう配慮した。

参加学生からは、「将来の働き方を考える良い機会となった」、「自分の考えを深める良い場づくりができた」などの感想が寄せられ、非常に好評であった。



#### (4) 新卒看護職の採用力向上セミナー（入門編）

学生の県内定着を図っていくためには、受け皿側の意識やノウハウについても働きかけが必要であるとの観点から、採用側への県内就職を促す支援として、「新卒看護職の採用力向上セミナー（入門編）」を平成28年12月3日（土）に開催し、11施設42名が参加した。

専門家の講演及びワークショップを通じて、県外や看護業界の新卒採用の現状や最新のトレンド、事例紹介、採用にあたっての課題や戦略についての理解を図った。なお、参加者の募集にあたっては、速やかな実行へ結びつけるために、看護部門責任者と人事担当者の両者の参加を条件とした。前例のない形式であったが、定員の10施設を超える申込みがあり、参加者から大きな好評を得た。



#### (5) WG平成27年度・28年度成果報告リーフレット

事業の内容を周知し、今後実施していく各種事業への協力・参加を促進するとともに、関係者等に自らの取組に興味・関心を持ってもらうツールとして、これまでの事業成果をとりまとめたリーフレットを作成した。





## 4. 起業実行プログラム

### (1) 起業家養成集中講義

平成29年3月1日(水)から3日間の日程で、「起業家養成集中講義」を八戸ワシントンホテルで開催し、県内を中心とした大学生など9名が参加した。この集中講義は、COC+事業の学生発起業実行プログラムとして、八戸学院大学・八戸学院短期大学地域連携研究センターがもつ「起業家養成講座」のコンテンツを活用し、起業に関心を持っている学生を対象として初めて開催したものであり、参加した受講生から起業への熱い思いの感じられる3日間であった。

大谷真樹八戸学院大学長が主任講師を務め、第一線で活躍中の実業家・起業家や各分野の専門家が講義を担当、「VISION・MISSION・価値の創造」、「ビジネスプランとファイナンス」、「起業に必要なマインドと戦略」並びに「事業化とブランディング」など起業にかかわる最新のノウハウを学びながら、最終日には各グループが作成したビジネスプランのプレゼンテーションを実施し、意見交換を行った。

3日間の講義を終えて受講生からは、「無理かもしれないことでも突きつめていくことでモノになることに気付いた」、「ビジネスの一端を垣間見ることができ非常に新鮮だった」、「チームで動くときの役割や視点を学ぶことができ、これからの起業に活かしたい」などの感想が寄せられた。

また、「今回のような起業家養成のプログラムを、大学でも講義として取り入れて欲しいと思いますか」との質問には、ほとんどの受講生が取り入れて欲しいと回答、なかには「今まで受けたビジネス関連の講義で一番実践的であった」との声もあった。



### 【3】 共育型インターンシップ

共育型インターンシップとは、学生と企業や地域、双方の成長を目指した新しいインターンシップである。平成28年度は企業インターンシップ6件、地域インターンシップを2件実施した。

#### 1. NHK 青森放送局 企業インターンシップ 【青森ブロック】

平成28年8月4日(木)から9月2日(金)まで、青森中央学院大学の学生4名がNHK青森放送局の実施する共育型インターンシップに参加した。

学生に与えられた課題は、9月21日(水)放送の青森発地域ドラマ「進め！青函連絡船」の認知度向上と視聴者の獲得及び若者のNHK接触率の向上である。

具体的な活動内容は、プレ・オリエンテーションとドラマロケ見学(ラーメンショップ幸畑店、八甲田丸)を皮切りに、第1週目にオリエンテーションによるインターンシップの目的の再確認とゴールの明確化、NHKの基本、局内探検ツアー及びプロモーションの課題設定とNHK管理職員からアドバイスを得ながらの企画立案を行った。また初日には青森ねぶた祭りでNHKねぶたの運行と広報物配布を行った。

第2週目は、青函連絡船を知らない若者代表として、青森から函館までフェリーで移動しながら当時の旅を疑似体験し、2日間にわたって函館で取材活動を実施した。フェリーでの移動中にはNHK公式Twitterで若者向けに情報発信し、函館取材では、「海峡ラーメン」の生みの親を訪ね、函館山で観光客にPRうちわを配布した。

第3週目には、番組のHPコンテンツ作成のため青森駅前と八甲田丸を取材し、文書を作成した。

最終週は、「思い出の青函連絡船」に投稿した視聴者への取材ロケを実施し、取材の心構えと準備、VTRの構成・編集作業を行った。また、テレビ番組「あっぷるワイド」及びラジオ番組「アップラジオ」に出演した。

本インターンシップの成果として、参加学生からは、「将来の目標や職業選択の視野が広がった」、「リーダーシップの大切さと難しさを学んだ」、「事前準備の大切さを知ることができた」、「アルバイトは“できること”だけ、インターンシップは“できないこと”に挑戦できる」など学生の成長が感じられる声が多くあがった。

受入企業であるNHK青森放送局の担当者からは、「学生に見られているということから現場に活気が出たこと、また今回の企画を準備する段階で様々なことを調べたことにより、自分の会社への理解がさらに深まった」との感想が寄せられた。





## 2. 株式会社青森テレビ 企業インターンシップ 【青森ブロック】

平成29年2月15日(水)から3月30日(木)まで、青森中央学院大学の学生4名が株式会社青森テレビの実施する共育型インターンシップに参加した。

学生に与えられた課題は、夕方の情報ワイド番組「わっち!!」の新年度コーナーを企画・制作することを通じて、地域に暮らす多様な人々をよりよく「つなげる」仕組みを青森テレビと一緒に考え、番組コンテンツを企画・提案することである。

事前学習として産業カウンセラーを講師に迎え、仕事との関わり、ビジネスマナー、仕事に対する姿勢など、実践的な研修を行った。

第1週目は、オリエンテーションとして①テレビというメディアの仕組み②地方テレビ局の現状③青森テレビが目指す姿を理解し、そして、地域のニーズや情報にふれ、自分たちの役割を理解するために、座学、社内見学、スタジオ見学を実施した。

第2週目は、過去に放映された「わっち!!」の番組を観ながら、番組のコンセプトや課題、魅力について考え、地域の人々とどのように「つながっているか」を探った。同時に青森テレビの課題、魅力について学生の視点で担当者と意見交換を行った。

第3週目、第4週目では、SNSなどで多様な世代間の情報共有ができるコンテンツづくりを目指して番組企画書を作成し、報道制作局長、部長へのプレゼンテーションを実施した。またプレゼンの後、局長や部長からの指摘を受けて、企画書の改定を行った。

本インターンシップを通じて、番組を企画、創っていくという過程では、様々な知識や情報、チームによる地道な努力が必要であること、また地域を元気にするには、多様な人々の集まりからの情報発信による「つながり」が大切であることなどを実感し、学生たちにとって視野が広がり成長できる良い機会となった。

青森テレビからは、「これまでの常識にとらわれない学生の発想が非常にユニークで、今後の番組創りに向けて新しいヒントを得た」との感想が寄せられた。



## 3. 株式会社若山経営 企業インターンシップ 【青森ブロック】

平成29年3月6日(月)から3月31日(金)まで、青森中央学院大学の学生2名が株式会社若山経営の実施する共育型インターンシップに参加した。

学生が取り組む内容は、青森市内の中小企業の実態を訪問調査して「魅力ある県内企業」とはどのような企業かを検討し、検証結果を取りまとめることである。事前に企業担当者との面談、学生からのヒアリングを実施したほか、産業カウンセラーを講師に招き、仕事との関わり、ビジネスマナー、仕事に対する姿勢など、実践的な実技を伴う講習を行った。



青森市内の中小企業の実態調査を実施するにあたり、①ヒアリング内容の確認②各企業の課題・解決策③学生が就職したくなる企業④企業の魅力を大学生に情報発信する手段などを主な内容として、4週間にわたって青森市内25社以上の企業を訪問し、経営者や社員にヒアリングを行った。そして、実態調査を通じて魅力ある県内企業についての提案を報告書にまとめ、インターンシップ受入先企業及び大学に提出した。

参加学生からは、「青森市内には多くの学生が知らない素晴らしい企業がたくさんあると実感し、それにより将来の職業選択の幅が格段に広がった」との感想が寄せられた。また同時に各企業の情報発信力が弱いため学生に周知されていない現状を知り、今後は多くの学生に伝えていきたいと意を強くしていた。

訪問先の企業からは、「学生に説明する難しさ、伝えることの大切さを気付かされた」、また受入先の企業からは「共育型インターンシップを通じてそれぞれの成長につながる良い機会だった」との感想が寄せられた。



#### 4. 有限会社ジャージー・ファームズ・ファクトリー 企業インターンシップ 【弘前ブロック】

平成29年2月14日(火)から3月10日(金)までの約4週間、西津軽郡鱒ヶ沢町にある有限会社ジャージー・ファームズ・ファクトリーにおいて、共育型インターンシップを実施し、弘前大学農学生命科学部園芸農学科2年の女子学生1名が参加した。受入企業であるジャージー・ファームズ・ファクトリーは、家族で「ABITANIA (アビタニア) ジャージーファーム」を経営しており、日本では頭数の少ないジャージー牛の酪農、乳製品の製造・販売、食肉の加工・製造・販売を行っている。

本インターンシップは、受入企業で製造している乳製品の販路開拓(契約1件)、及び販路開拓で訪問した店舗等の反応や意見の収集を目的とし、販路の開拓先は、神奈川県横浜市を対象とした。

活動は、実際に牧場での作業を行い、乳製品の原材料がどのような環境で生産されているのか、また経営者は何を重視して作業を行っているのかを、実体験を通して理解することから始めた。それらを踏まえて、乳製品の販路開拓のための営業資料を作成し、最初の営業活動を実施した。この営業活動の結果や参加学生の活動状況に期待した成果が見られなかったため、当初は神奈川県横浜市での販路開拓であったプロジェクトを再設計し、弘前市内での営業活動に変更するとともに、営業資料の内容や営業計画及び営業プロセスの見直しを行った。それに基づき、弘前市内で活動を開始し、参加学生が独自の視点や判断で販路開拓を実施し、8件の店舗を訪問した。

参加学生の想いや取組姿勢に評価を得ることができ、平成29年度は、さらに長期のインターンシップを実施する予定である。



## 5. 株式会社リンクステーション 企業インターンシップ【弘前ブロック】

平成29年2月16日(木)から3月17日(金)までの約4週間、青森市にある株式会社リンクステーションにおいて、共有型インターンシップを実施し、弘前大学人文社会科学部社会経営課程1年の男子学生1名が参加した。

受入企業であるリンクステーションは、ITベンチャー企業であり、主要事業はセブン-イレブン約18,000店で導入されているASP票券管理システム「Getti (ゲッティ)」の運営・管理・販売であるが、並行して、青森を元気にし、暮らしをより良くするための情報WEBサイト「ポみっと！」の運営を行っている。

本インターンシップは、受入企業で運営している情報WEBサイト「ポみっと！」への有料掲載2件(2店舗)を目的に行った。「ポみっと！」への店舗情報掲載は、まず無料掲載の営業を行い、その感触を確かめて有料掲載を勧めていく手順とした。

活動の最初に、経営者の理念や事業について、スーパーバイザーから説明があり、それらの理解を踏まえてWEBサイト「ポみっと！」への掲載方法の講義が実施された。有料掲載へ向けた訪問店舗の選定では、最初に対象とする分野の絞り込みを行い、その結果として男性を対象にした「ビューティ」に決定した。次に、対象とした分野で関心・興味のある店舗をリスト化し、アポ取りや営業資料、営業時のスクリプト作成など店舗訪問の準備を進めた。営業に関しては、社員に同行して実際のプロセスや雰囲気、かつどのような会話をどのようなタイミングで行うのかを経験した上で、9店舗に対して「ポみっと！」掲載の営業活動を実施した。

受入企業からは、「経験のない人材を育てる実践的な体験ができ、指導を通して自己の振り返り等ができた」という評価があった。





## 6. 有限会社コスモクリエイト 企業インターンシップ 【むつブロック】

平成29年2月23日(木)から約4週間にわたり、下北郡東通村の有限会社コスモクリエイトにおいて、共育型インターンシップを実施し、弘前大学人文学部現代社会課程2年の女子学生1名と、東京のNPO法人ETICの地域ベンチャー留学制度を利用した東洋大学観光学科の女子学生1名の計2名が参加した。有限会社コスモクリエイトは、印刷物等のデザインや地域貢献を目指したイベント企画を営んでいる。

本インターンシップは、東通村の地域資源を活用した滞在型観光プランの確立と実施、観光ツアーを行う際に用いるツールの作成を目的とした。

最初の活動として、東通村の地域や観光資源を知るための現地調査を行った。参加学生は東通村に4週間滞在し、観光地や地域名産品の製造現場の視察、まちおこし団体主催の勉強会参加等を通じて村民との交流を深めた。調査結果を踏まえて東通村の地域資源・観光資源をリスト化し、試行錯誤しながらも独自の観光プランを考案した。

その後、実際に観光プランを巡るモニターツアーを企画し、ツアーパンフレットやポスター、ツアーで使用するツールを作成した。平成29年3月21日(火)に開催したモニターツアーには15名が参加し、参加学生もガイドの一部を担当した。

インターンシップを通じて様々な業務を経験することで、参加学生は自らの得手不得手を認識し、新たな自分を再発見した。また受入企業は、生活の一部として日常的に行われていることでも魅力的な観光資源となることを学生により気付かされ、今後の観光プランや地域イベント企画に生かしていくことが可能となった。



## 7. 平成28年度共育型地域インターンシップin田舎館 [弘前ブロック]

### (1) インターンシップの基礎情報

平成28年5月29日(日)から12月2日(金)までの約6ヶ月間、田舎館村役場の企画観光課において、共育型インターンシップ「平成28年度共育型地域インターンシップin田舎館」を実施した。田舎館村役場でのインターンシップは、月3日以上(1日3時間以上)田舎館村に通うことを条件とした。このインターンシップに弘前大学人文学部現代社会課程3年の女子学生2名、同2年の女子学生1名の計3名が参加した。

### (2) インターンシップの活動

インターンシップ最初の2ヶ月は、田舎館村を知るために地域を歩き回りながら地域住民と交流し、また村内で実施されたイベントへの参加やサポート等の活動を行った(田舎館を知る期間)。

その後、イベントへの参加や地域住民との交流から得た経験を踏まえて、学生自らが考えるイベントや活動の企画立案と実施へ向けた準備を進めた(とことん活動期間)。そして参加学生各々が、田舎館村の子どもたちと交流し会話することを重視した「子ども交流企画」、お米に関するすべてを知ってもらいたいと考えた「お米ツアー」、田舎館村の生活を体験するプログラムを検討するための「農家民泊体験」のイベントを企画立案した(企画実践期間)。

それらを踏まえて、成果報告会では、参加学生各々が田舎館村への提案を行った。また活動期間中は、SNSでの情報発信を行った。

田舎館を知る期間	とことん活動期間	企画実践期間
5/29 田んぼアート田植え	8/7 高経との交流②	10/7 お米ツアー本番
6/10 いちご農家訪問	8/9 お米ツアーテスト	10/8 子ども交流
6/11 高経との交流①	9/25 地方創生大臣訪問	10/24 農業体験
6/19 田舎館ぶらっとデー	10/1 高経との交流③	11/18 農家民泊体験
7/17 ねぶた制作	10/2 田んぼアート稲刈り	
8/7 だるリンピック		



田んぼアートの田植えに参加



山本幸三地方創生大臣が田舎館村を訪問



### (3) 参加学生によるイベント・活動の実施

「子ども交流企画」は、平成28年10月8日(土)に実施した。企画には、参加学生3名と地域の子どもたち22名が参加し、将来の夢や田舎館の好きなところを子どもたちがリレー形式で書く「お絵かきリレー」や田舎館村のイメージキャラクター「米こめくん」をチーム全員で協力して描くエクササイズを行った。

「お米ツアー」は、平成28年10月7日(金)に実施し、青森県内外から3名が参加した。参加者は、田んぼアートを鑑賞し(お米を「見る」)、稲作の歴史を学び(お米を「知る」)、古代米の稲でリースを作り(お米に「触れる」)、古代米の料理を食し(お米を「味わう」)、地元の方々とお米について話す(お米を「語らう」)ことで、お米を五感で体感した。

「農家民泊体験」は、トマト農家において平成28年11月18日(金)から11月19日(土)の1泊2日で実施した。参加学生3名は、トマトのツルを固定する紐の除去、ビニールハウスの支柱の片付け、出荷するトマトのラベル張りの作業を行い、夜は、夕食の準備や受入農家との交流などを行った。



子ども交流企画



お米ツアー



お米ツアー



農家民泊体験

### (4) インターンシップ成果報告会

平成28年12月2日(金)、田舎館村役場においてインターンシップの成果報告会を実施した。成果報告会では、6ヶ月間にわたる活動を振り返り、その後各自が実施した企画を基に、それぞれの提案を田舎館村に伝えた。提案は、田舎館村での活動と村民との交流を通して田舎館のマニアになったことから生まれた「田舎館マニア増加計画」、農業体験や民泊体験から、田舎館村の農業をもっと知ってもらいたいと考えた「民泊の良さを伝える草の根運動」、お米ツアーの経験から、弘前大学生



の間で田舎館観光を流行にするための「田舎館村を流行に」の3つである。

参加学生3名の活動は、インターンシップが地域に貢献するという評価につながり、平成29年度も長期のインターンシップを実施する予定である。



## 8. 下北×台湾 命の絆プロジェクト [弘前・むつブロック]

現在、青森県下北地域では、官民が連携して、台湾を主軸としたインバウンド事業を展開している。インバウンド事業の背景には、古くから台湾との歴史的・文化的つながりが深いという下北地域の優位性を活かした独自の観光振興を実現しようという意欲的な狙いがある。そこでインバウンド事業の促進に資する知見の創出を目指して、学生参加型の調査を実施することとした。本調査によって、インバウンド事業を側面から支援するようなプロジェクトの成立が見込まれた場合には、平成29年度以降の地域志向の教育に組み込むことを視野に入れたものである。

平成28年度の学生参加型調査として、特に注目したのが、「下北と台湾の命の絆」である。昭和40年代、下北の医師不足を解消するため、台湾から多くの医師が来日し、むつ市、大間町、風間浦村、佐井村の診療所などで治療に当たった。こうした下北と台湾の命の絆は、ほかのどの土地にもないかけがえのない資源である。

本プロジェクトは、平成29年2月に開始した。まず下北地域県民局地域支援室室長の中野顕氏をゲストとして招き、台湾を主軸としたインバウンド事業について講演を行った。

講演後に最終的な調査に参加する学生が4名に絞られた。参加学生とともに、調査の枠組みについて検討し、2月11日(土)から2月12日(日)に下北地域へ調査に向かった。学生の協力のもとで、下北地方で当時、台湾人医師と一緒に働いた看護師や治療を受けた患者などの証言を集めた。その結果、下北地域で医療に従事した台湾人医師のリストを作成することができ、活躍の事例が複数収取された。これらの調査の結果は、PR用のチラシなどの形に編纂された。また、こうしたプロセスを通して、学生は下北の歴史や社会について学ぶとともに、地域を舞台とした活動の第一歩を刻むことができた。

平成28年度の取組を踏まえて、本プロジェクトについては、平成29年度から、弘前大学の教養教育の枠組みのなかで、地域志向教育としてプロジェクトを進めていくこととした。

## 【4】 学生の地元就職支援(ブロック事業)

### 1. 学生企画による情報誌「SCENE」【青森・弘前・むつブロック】

学生に青森県内への就職を促し、県内就職率を高めるためには、学生が青森県内の企業についてより深く知る必要がある。しかしながら、全国的な就職情報サイト等に掲載されている情報は都市部の大手企業が中心であり、青森県内で活躍する企業や経営者の情報を深く知ることは依然として困難である。また、掲載されている情報が学生にとって魅力的なものとは限らない。学生の就職活動において、青森県内の企業を選択肢の一つとして考えるようにするためには、青森県内の企業に関する情報、それも学生にとって魅力的かつ有益な情報を発信していく必要がある。

そこで青森COC+推進機構の青森・弘前・むつブロックが連携して、学生自身が青森県内の企業を取材し、学生に向けて紹介する情報誌を制作することとした。情報誌は「学生自らが青森県内の魅力的な企業や人物、地域など、青森県のさまざまな場面＝シーンに出会い、多くの学生に記事として伝える」をコンセプトとし、誌名を「SCENE」(シーン)と命名した。

「SCENE」の中心記事となる「学生による青森県の企業訪問」では、学生が青森県内の企業を実際に訪問し、企業の特徴や職場環境、研修制度、求めている人材像など、学生が就職活動の際に最も参考としたい情報を中心に取材を行い、記事を作成した。また、より学生の興味を引くために、インターンシップやサークル、教員、地域イベントの情報も掲載した。

平成28年度においては7月、11月、3月に計3回発行し、企業11社(うち事業協働機関9社)を掲載した。取材・制作は弘前大学、青森中央学院大学、青森中央短期大学の学生が担当した。

「SCENE」は、事業協働機関に配布されたほか、弘前大学では必修科目にて1年生全員に配布し活用することで、青森県内企業の魅力を広く学生に知らせることを可能とした。





## 2. 合同企業等見学会inむつ 【青森・むつブロック】

平成28年10月6日(木)から10月7日(金)の2日間、「合同企業等見学会inむつ」を開催し、青森中央学院大学の学生8名と弘前大学の学生3名の計11名の学生が、むつ下北地域の企業等を訪問した。

この見学会は、県内の学生及び本県へのUIJターン希望者が、むつ下北地域の企業等を訪問し、むつ下北地域の企業等を実際に知ることで、インターンシップや就職の場としての選択肢を拡大することを目的に実施した。

参加学生は、むつ下北地域の企業4社と監査法人、国立研究開発機構の計6つの企業等を訪問し、企業概要について説明を受けながら、実際に現場を訪問して製造現場や執務状況を学生自身の目で確かめた。また、参加学生は、積極的に質問するとともに会社の業務に挑戦するなど、座学では見受けられない生き生きとした活動が見られた。

参加学生からは、「今回の見学会に参加し、実際に企業の運営や施設を見学できたことは、これからの就職活動に大きな影響をもたらしてくれると確信した」、「自分がまだ知らない業種の企業の見学もできたため、貴重な体験ができたと同時に様々な業種の企業があることを知ったことから、就職にあたっての知識の幅が広がった」、「実際に見に行くことの重要性を知ることができたので、今後に生かしていきたい」との感想が寄せられた。

見学会の実施により、青森県内での就職を考える際、選択肢の幅が広がり、本格的な就職活動への準備として参考になるなど、有意義な見学会となった。



### 3. 県内病院と大学の情報交換会 【弘前ブロック】

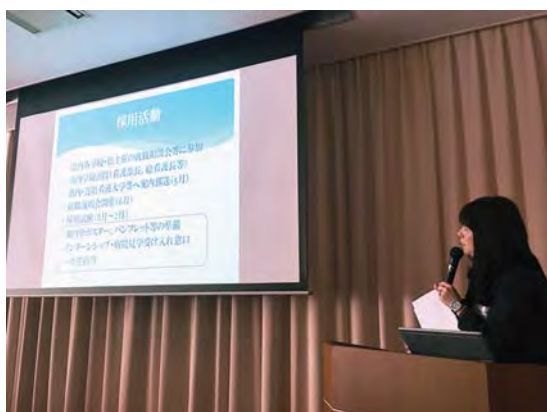
平成29年3月13日(月)、「県内病院と大学の情報交換会 看護学生の県内定着を目指して」を弘前大学創立50周年記念会館2階岩木ホールにて開催し、青森県内の病院・医療関係者及び大学関係者33名(13病院及び5大学)が参加した。

青森COC+推進機構が掲げる「大学生の県内定着」において、特に県外流出が著しい看護学生の県内定着は大きな課題となっている現状を踏まえ、弘前ブロック全構成校が連携し、課題解決に向け取り組んでいる。

その方策の一つとして、参加対象を弘前ブロック内のみならず県内全域に広げ、県内病院で看護学生の採用に関わる職員と、看護専攻を持つ大学で就職に関わる教職員による情報交換会を開催した。

はじめに、弘前市内の3病院(健生病院、弘前市立病院、弘前記念病院)から看護学生の採用状況や採用に関する課題について報告があり、続いて、大学側から看護学生の就職状況や学生からの大学や病院に対する就職活動上における要望について報告があった。

その後、ワークショップ形式で参加者各々が抱える課題を共有し、その課題解決に向けての議論が行われ、「病院インターンシップの早期実施が学生の県内定着につながる事がわかった」、「病院説明会において学生に好印象をもたらす創意工夫がもっと必要だ」といった感想や意見が挙げられた。





#### 4. 中小企業の若者ネットワークづくり 【弘前ブロック】

コラボ弘大1階フリースペースにて実施されている県内在住の社会人&学生の交流会「やわラボ」への参加促進と企業の枠を超えたネットワークづくりを目的として、弘前市及び弘前商工会議所の協力のもと、平成29年1月19日(木)に「中小企業の若者ネットワークづくり」を開催し、若手社会人19名、学生5名が参加した。

参加者の社会人においては、業種が様々であり、青森県居住歴が浅い県外出身者も含まれていたが、交流を通して親睦を深め、ネットワークのさらなる発展につながった。

また、学生からは「ネットワークの存在が弘前市へ就職する魅力の一つになる」といった感想が寄せられた。



#### 5. 県内企業見学ツアー 【弘前ブロック】

県内就職支援の充実を図るため、弘前地区・青森地区企業の見学会を平成28年8月9日(火)から8月10日(水)の2日間にわたり実施した。見学する企業は、幅広い業種から4社を選出し、学生30名が参加した。参加学生からは、「世界に通用する技術を持っている企業が地元にあることを初めて知った」、「実際に見学をしないとわからないことがたくさんあった」等の報告が寄せられ、県内企業に対する学生の理解度が高まった。

見学企業：(株)日本マイクロニクス青森工場／青森県りんごジュース(株)／  
(株)東奥日報社／損保ジャパン日本興亜(株)青森支社





## 6. 県内企業インターンシップ合同説明会 【弘前ブロック】

インターンシップ参加学生の拡大に向け、県内企業を中心にインターンシップ合同説明会を平成28年10月24日(月)と平成29年1月19日(木)の2回にわたり開催し、企業20社、学生92名が参加した。弘前大学の平成28年度のインターンシップ参加学生は164名(平成27年度比73名増)で、うち県内企業等のインターンシップ参加学生は88名(平成27年度比40名増)となった。



## 7. 県内企業対象企業説明会 【弘前ブロック】

平成28年10月24日(月)、県内企業を中心とした合同企業説明会を初めて弘前大学で開催し、企業8社、学生12名の参加があった。この説明会に参加した学生が内定を得るなど、県内就職希望者の支援充実を図った。

また、弘前大学では学生の就職活動を支援するため、個別企業説明会や業界研究会を通年で学内開催しており、県内企業等による実施は73回となった。参加学生は延べ878名で、学内で就職活動ができることから、学業への影響もなく経済的な負担減にもつながっている。



## 8. 県内企業と大学との就職懇談会 【弘前ブロック】

県内企業と大学との就職懇談会を3地区(弘前・青森・八戸)で開催し、弘前地区29社、青森地区19社、八戸地区27社の企業参加を得て、地元企業との連携強化を図った。弘前地区においては、COC+参加校である東北女子大学、弘前学院大学、弘前医療福祉大学の就職担当教職員も参加し、就職率向上やインターンシッププログラムの開発等に関する意見交換を行った。



## 9. あおもり県企業内容説明会 【八戸ブロック】

平成28年10月22日(土)、「あおもり県企業内容説明会」をグランドサンピア八戸で開催し、青森県内企業関係者、学生及び教職員など約150名が参加した。

平成27年度に引き続き、学生に対しては地域の企業を知る説明会として、また、県内企業においては大都市圏における求人活動を知るセミナーとして、さらにはブロック内の3学の教職員と懇談し情報交換の機会とする目的で実施した。さらに、平成28年度より新たに、女性社長による講演会が加わり、大変有意義な企業内容説明会となった。



## 10. 地域企業と学生の共同による企業プロモーション作成ツールの制作 【八戸ブロック】

「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」における学生の地元就職支援(ブロック事業)の一環として、地域企業と学生との共同による企業プロモーション作成ツールの制作が行なわれ、コンテスト形式で成果発表会を開催した。

企業プロモーション作成ツールは、企業紹介動画、ポスターや展示方法について、学生のアイデアにより制作された。制作過程において、参加学生は地域企業を学んだ。また、成果発表会がメディアで取り上げられたこともあり、多くの学生の目を地域に向けることができた。



## 11. 女性のキャリア支援セミナー「女性が輝く、みんなが輝く」【むつブロック】

女性の働き方改革のためには、女性が変わる以上に、社会が変わる必要がある。このような観点から、平成29年2月24日(金)、むつ市において、性別の違いに関係なく、一人ひとりが安心して活躍できる社会のあり方について考える講演会「女性が輝く、みんなが輝く～性別にとらわれないこれからの生き方～」を開催し、弘前大学男女共同参画推進室の山下梓助教が講演を行った。

当日の講演会では、女性の生き方や暮らし方に関する様々なデータが紹介されるとともに、性別にとらわれない働き方や暮らし方をキーコンセプトとした地域おこしの事例が報告された。具体的には「過疎ロマン」をテーマに、年齢や性別の垣根を越えたユニークな交流イベントを実施している京都府南山城村や農村の若い女性の生き方に寄り添った支援を自治体単位で実施している福島県飯館村、男女共同参画によるまちづくりを図っている岩手県釜石市の事例などが紹介された。



## 12. 広報誌「Acali」

青森県の「まち・ひと・しごと創生 オールあおもり連携促進事業」の一環として、主に青森県内の自然科学系学生を対象とした県内企業PRを目的に、広報誌「Acali」（アカリ）を発行した。

誌名の「Acali」とは、Aomoriの「A」、仕事あるいは職業として進む道の意味となるCarrierの「Ca」、生き方を意味するLifestyleの「Li」を組み合わせた造語で、青森県内の魅力的な企業や活動する人物、団体を掲載することで、学生自身がこれから進む道や生き方を見出すきっかけとなることへの期待が込められている。

「Acali」は県内企業5社と1自治体を紹介する「企業・団体編」を平成29年1月に、青森県内で活躍する人物6名を紹介する「人物編」を平成29年2月に発行し、学生や事業協働機関に配布した。

また、「Acali」に関連したトークイベントを平成29年2月10日(金)に弘大カフェで開催した。





## 【5】 学生の起業支援(ブロック事業)

### 1. 学生起業セミナー／個別相談会 【青森ブロック】

平成28年10月から平成29年2月にかけて、青森中央学院大学を会場に、学生起業セミナー「あなたも社長！になってみませんか」及び個別相談会を計8回開催し、学生延べ25名が参加した。

セミナーでは、21あおもり産業総合支援センターのインキュベーション・マネージャーである齋藤拓也氏を講師に招き、ビジネスプランの作り方、予算計画、販路開拓、起業準備について学んだ。学生の起業に対する意識の醸成を目的に、地方経済の特色、NPO法人の現状及び基本的な会社経営の手法などを学ぶことにより、参加学生の起業についての問題意識の向上に寄与した。



### 2. 地域おこし協力隊OB / OGによる講演会 【弘前ブロック】

平成28年12月16日(金)と平成29年3月3日(金)の2回にわたり「地域おこし協力隊OB / OGによる講演会」を弘前大学創立50周年記念会館2階岩木ホールにて開催し、学生、大学関係者、自治体関係者など延べ70名(うち学生16名)が参加した。

第1回目は、二戸市観光協会コーディネーターの永井尚子氏による「二戸市地域おこし協力隊の活動紹介と協力隊の『その後』」をテーマに、第2回目は、まよひが企画代表の佐藤恒平氏による「着ぐるみからゲストハウスまで～山形県朝日町の協力隊活動のあゆみ～」をテーマに講演が行われた。

両者に共通する点として「地域おこし協力隊での経験」をもとに、地域資源を活用しながら地域に密着したスモールビジネスの構築が挙げられる。

参加者にとっては、そのノウハウを学ぶ機会となり、熱心に耳を傾けている様子が見られた。



### 3. 学生ゲストスピーカー「“青森でパンの袋を留める”誕生秘話」【弘前ブロック】

商品開発に取り組んでいる学生をロールモデルとして発信し、挑戦する連鎖を生むことを目的として、平成28年7月19日(火)、学生ゲストスピーカー企画「“青森でパンの袋を留める”誕生秘話」を弘前市内にて開催し、学生13名のほか、学生の取組に関心を寄せる自治体関係者が参加した。

当日は、学生ゲストスピーカーとして“青森でパンの袋を留める”の発案者である弘前大学教育学部3年の鈴木海人さんから「青森県の形の資源化」に至るまでの経緯や、地元企業との連携、SNSによる情報発信や仲間の存在の重要性について報告があった。

参加学生からは、数多くの質問が飛び交い、学生同士が刺激し合い、お互いを高め合う機会となった。



### 4. 弘前大学起業家塾【弘前ブロック】

起業への意識醸成を図り、起業(VB)の促進、研究シーズ等を活用した起業家の育成及びイノベーションの創出を目的とした「弘前大学起業家塾」を計6回開催し、学生、研究者、企業経営者延べ234名が参加した。

第1回目から第3回目までは外部講師を招聘し講演及びワークショップを開催し、第4回目から第5回目まではグループを組んでワークショップを開催した。

最終回となる第6回目は、書類選考を通過した6グループによるビジネスコンテストを開催し最優秀賞1グループ、優秀賞を2グループ選出した。





## 5. イノベーション・ベンチャー・アイデアコンテスト2016 【八戸ブロック】

平成28年12月11日(日)、「イノベーション・ベンチャー・アイデアコンテスト2016」を八戸パークホテルで開催し、学生及び教職員など約70名が参加した。

本コンテストは、COC+事業において、地域の雇用創出や学卒者の地元定着率の向上を目標に掲げていることから、学生からのアイデアを来場者や企業にショートプレゼンテーションやポスターで発表をするという初めての試みとして実施され、「地域の活性化を目的としたもの」をテーマとして、八戸工業大学、八戸学院大学、八戸高専の3校から11件の応募があった。来場者や企業関係者から学生の発表に対して活発な質問や意見交換が行われ、審査員による審査と来場者の投票により各賞が決定された。



## 6. 下北での起業プロセス実証事業 【むつブロック】

青森県の「まち・ひと・しごと創生 オールあおもり連携促進事業」の一環として、若年層の域外流出が続く下北地域をフィールドに、地域社会に貢献する「社会起業」の考え方のもと、域内の企業・団体と協力しながら、学生による起業プロセスの実証を行う「大学生による下北地域での起業プロセス実証事業」を、平成28年9月から平成29年2月の約5ヶ月間で実施し、弘前大学の学生7名が参加した。

参加学生は、下北郡東通村で地域活性化を目指す団体「東通★東風塾」と連携してワークショップやイベント企画、商品の開発・販売などを行った。本事業における様々な活動を通して、学生の社会起業に対する意識や社会人基礎力を育成することができた。





## 【6】 雇用創出連携プロジェクト

### 1. アグリ関連プロジェクト

#### (1) 青森県産農産物を主体とした高付加価値化等に関する産業化

アグリ関連プロジェクトは、青森県産農産物の高付加価値化に焦点を絞り、新規商品の開発促進を目的としている。平成28年度は、高付加価値化のための農産物の機能性分析や分析方法の確立、及び商品の加工方法の確立に取り組んだ。

平成28年4月から10月にかけては、プロジェクトの方向性を検討し、対象となる企業や団体等の選定を行った。対象となったのは、以下に示されている企業4社、NPO法人1団体、及び研究機関2組織の計7機関である。7機関とは共同研究契約を締結し、平成28年10月から平成29年3月までの期間で開発を進めた。

#### ■ 実施事業一覧

機関名	担当者名	所属部署	共同研究者名	所属部署
(地独)青森県産業技術センター弘前地域研究所	高橋 匡	食品素材開発部	加藤 陽治	弘前大学 教育学部
研究課題名	カシス果実および加工品中に含まれるポリフェノールおよびアントシアニンの定量法の確立			
<p>目標：カシス果実及びそれを食品素材化した際のポリフェノール及びアントシアニンの定量分析法を確立し、それらに含まれるポリフェノール量を担保することで、地域のカシス産業発展に寄与する。</p> <p>成果：カシスに含まれている主要ポリフェノール（アントシアニン）に関して、定量分析の方法を確立することができた。確立した分析方法により、カシス生産者やカシス加工業者等のニーズに応えることが可能となる。</p>				

機関名	担当者名	所属部署	共同研究者名	所属部署
八戸工業高等専門学校	山本 歩	マテリアル・バイオ工学コース	内山 大史	弘前大学 地域社会研究科
研究課題名	青森県産ナガイモの機能性解析			
<p>目標：青森県の特産品であるナガイモの機能性解析を行うことでナガイモの高付加価値化および高機能化を図る。</p> <p>成果：ナガイモエキスに含まれている成分濃度は、水分含量に依存することが明らかとなった。また、3種類のナガイモ（ながいも、ネバリスター、自然薯）の機能性を比較した結果、ネバリスターは高い消化酵素活性を有していることが明らかとなった。</p>				

機関名	担当者名	所属部署	共同研究者名	所属部署
ミリオン株式会社	柴田 浩一朗	社長	殿内 暁夫	弘前大学 農学生命科学部
研究課題名	白神山地から分離した菌類の有効利用に関する研究			
<p>目標：子実体形成性のキノコ（担子菌）を機能性食品・添加物として活用するための、キノコ（担子菌）の人工栽培条件の検討と子実体の機能性分析の解析を行う。</p> <p>成果：人工栽培の予備試験として人工培地での生育条件の検討を行い、簡易な培地（PDA）で増殖可能であることが確認された。機能性解析として抗生物増殖活性の解析を行った結果、7種類より抗生物増殖活性が見出され、そのうち2種類では活性が極めて強いことが明らかとなった。</p>				

機関名	担当者名	所属部署	共同研究者名	所属部署
大周 弘前倉庫株式会社	大水 達也	取締役社長	加藤 陽治	弘前大学 教育学部
<b>研究課題名</b>	青森県におけるカシス産地化研究			
<p>目標：青森県内でのカシス栽培の拡大と高付加価値化食品の製造を可能にするため、積雪地及び機械化に適し、かつ機能性成分が豊富な品種の選定、及び高付加価値化につながる新規機能成分の解析を行う。</p> <p>成果：栽培予定圃場の環境調査から2箇所を予定圃場地とした。12のカシス品種を用いた栽培試験の準備を進め、収穫の機械化に向けた各種の課題を整理した。3品種を用いた機能成分の分析によりアントシアニンの分析方法が確立した。</p>				

機関名	担当者名	所属部署	共同研究者名	所属部署
青森県りんごジュース株式会社	倉内 佑	品質管理部 品質保証課	前田 智雄	弘前大学 農学生命科学部
<b>研究課題名</b>	機能性ニンジン品種を用いた高付加価値ジュースの開発			
<p>目標：高機能性ニンジン品種を原料とした新規性の高いニンジンジュース開発のため、以下の3点を明らかにする。また、それらは生産に向けたライン設計に利用される。明らかにするのは、①加工処理がニンジン中の機能性成分量と呈味性に及ぼす影響、②越冬貯蔵によりニンジンの風味が良化する事の根拠、③越冬貯蔵ニンジンジュースの風味の優位性に関する知見、である。</p> <p>成果：冷凍貯蔵と雪中貯蔵の原料で製造した濃縮汁の呈味比較や成分比較、及び雪中栽培ニンジンの成分分析と呈味評価は継続中である。また、香気分析は分析手法の情報収集を実施した。</p>				

機関名	担当者名	所属部署	共同研究者名	所属部署
(特非)循環型社会創造ネットワーク	佐々木 秀智	-	桐原慎二 久保田健	弘前大学 北日本新エネルギー研究所
<b>研究課題名</b>	脱カドミウム処理イカゴロの乾燥とトラフグ飼料への利用に関する研究			
<p>目標：大量廃棄されるイカの中腸腺（イカゴロ）をトラフグ養殖の飼料として活用するため、①脱カドミウム処理済イカゴロエキスの乾燥処理の手法、②イカゴロのトラフグへの飼料価値（摂取量、生残と成長）を明らかにする。</p> <p>成果：①乾燥温度や時間等、飼料として調整可能となる効率的な乾燥手法を開発できた。②エキスには明瞭な飼料価値が認められなかったが、添加物の混合により価値を高められることが明らかになった。エキスは稚魚の摂餌を誘引または刺激することが示唆された。</p>				

機関名	担当者名	所属部署	共同研究者名	所属部署
丸大堀内株式会社	外崎 健児	業務推進部	吉仲 怜	弘前大学 農学生命科学部
<b>研究課題名</b>	弘前大学育成「紅の夢」を活用した新規加工品の試作・開発			
<p>目標：紅の夢の特性を踏まえた加工用途の方策を検討するため、①製菓用一次加工原料の検討、②製菓試作品の検討、③製菓試作品のアンケート評価、を行う。</p> <p>成果：①原料の開発には、加工時期や加工程度、歩留まり等において、技術ノウハウの更なる積み上げが必要になることが明らかになった。②既存商品をベースにした加工では、紅の夢の特徴を活かし切れないことが明らかとなった。③アンケート64件から試作品に対する反応を収集した。</p>				



カシスの苗木



紅の夢

## (2) 研究会間の連携

本事業は、組織間の連携を強化することで、アグリ関連産業の振興に寄与することを目的に、「ひろさき産学官連携フォーラム(以下、フォーラム)」及び「青い森の食材研究会(以下、研究会)」への支援を行った。

フォーラムは、企業・大学・公的機関等の共同研究の推進を目的とし、企業84社、大学関係者や個人事業主等105名が会員となっている。研究会は、農林水産物に関する機能性情報の普及と活用及び関連産業の振興等を目的とし、大学や研究機関から12名が参加している。

平成28年度は、地域一体のさらなる取組を進めるため、両組織の合併を行った。フォーラムのなかに研究会を位置づけ、また研究会のなかに、機能性情報の発信や仕組みづくりを担う「研究情報発信部会」、県産農産物を活用した商品開発を担う「研究開発実施部会」を設置した。合併と部会の設置により、域内支援団体、関係者の一元化と集中化を図った。





## 2. ライフ関連プロジェクト

### (1) 八戸市立市民病院と共同での取組

「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」における雇用創出連携プロジェクト(ライフ関連プロジェクト)の一環として、八戸高専の学生が八戸市立市民病院と共同で「点滴スタンドの安全性と利便性の向上」に取り組んだ。学生は現場のニーズから商品開発へとつながる課題に取り組むことにより、地域理解が深まった。

平成28年11月23日(水)開催の八戸高専COCフォーラムでは、学生によるプロジェクトの進捗状況の報告や成果発表が行われた。フォーラムの参加者からの活発な質問や意見交換が行われ、今後のプロジェクトの参考となるきっかけとなった。

### (2) 医工連携セミナー・ライブイノベーションフォーラム

平成29年2月28日(火)、弘前大学理工学研究科附属医用システム創造フロンティアと(公財)八戸地域高度技術振興センターとの共催により、「医工連携セミナー(医用機器開発シーズ)～HCアカデミー～」を弘前大学八戸サテライトで開催し、12機関計23名が参加した。

セミナーでは、基調講演や医用機器開発についてのシーズの説明、COC+事業のライフ事業が紹介され、活発な質問や意見交換が展開され、大変有意義なものになった。



### 3. グリーン関連プロジェクト

#### (1) 企業と連携した見学会や実習

地域に立地するエネルギー・設備系大企業と連携して、原子力・電力・再生可能エネルギーなどの分野について、見学会や実習を実施し、学生の地元企業への理解を深め、さらに企業が希望する研究開発・保守分野の技術者の育成を進めている。こうした活動により、学生のエネルギー・設備系企業や地元への就職が進んでいる。

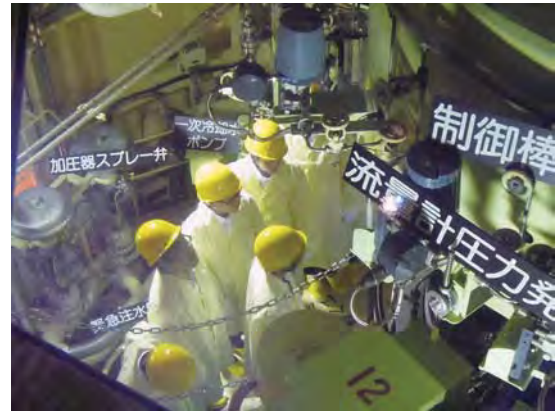
特に、八戸から下北にかけての北東青森地区は大規模エネルギー施設の集積地であり、COC+の事業を通じて、これまでの企業との連携をさらに深めている。原子力分野においては、地域企業への学生の認識の充実を図り、地域で日本に貢献できるメリット、さらには世界を視野に入れた職業活動の可能性があることを複数の機会を通じて周知されている。

#### ■ 平成28年度卒業生に対する原子力関連企業とのマッチングを図る努力の例

実施項目	実施内容および実施時期
1. 事前学習 (インターンシップ)	実施内容：インターンシップをより効果的にする目的で、八戸工業大学にて事前学習を行った。 実施時期：8月21日 参加者数：7人
2. インターンシップ	実施内容：東北電力東通発電所、青森日揮プラントックへ専門科目教育の効果を高めると同時に将来的な職業選択に向けて経験を積む目的とした、インターンシップを行った。 実施時期：8月24日～28日 参加者数：東北電力東通発電所4人 青森日揮プラントック4人
3. 事前学習 (夏期研修)	実施内容：夏期研修内容をより効果的にする目的で、八戸工業大学にて事前学習を行った。 実施時期：8月24日 参加者数：37人
4. 夏期研修	実施内容：東通村、むつ市、大間町において、現場見学・現地技術者との技術交流を目的とした研修を行った。 実施時期：8月25日～27日 参加者数：37人
5. 事前学習 (秋期研修)	実施内容：秋期研修内容をより効果的にする目的で、八戸工業大学にて事前学習を行った。 実施時期：10月16日 参加者数：27人
6. 秋期研修①	実施内容：六ヶ所村において、現場見学・現地技術者との技術交流を目的とした研修を行った。 実施時期：10月27日～29日 参加者数：35人
7. 秋期研修②	実施内容：六ヶ所村において、現場見学・現地技術者との技術交流を目的とした研修を行った。 11日は、青森原燃テクノロジーセンターの「原子燃料サイクルと六ヶ所再処理工場建設開始までの道のり」講座を受講した。 実施時期：11月11日～13日 参加者数：14人
8. 事前学習 (放射線研修)	実施内容：八戸工業大学で、放射線研修をより効果的にする目的で、事前学習を行った。 実施時期：12月3日 参加者数：6人
9. 放射線研修 (管理区域)	実施内容：環境科学技術研究所で、放射能や放射線への理解を深めるとともに放射線の性質及び測定器の特性の理解を目的とした研修を行った。 実施時期：12月16日～17日 参加者数：6人



夏期研修の様子(原子力関連企業での技術者との交流)



夏期研修の様子(むつ科学技術館にて)

## (2) 技術者育成に向けた講演会の開催

八戸工業大学が実施している「ものづくり次世代型技術者養成事業」のフォローアップを行った。

既受講者に対して、連絡事務所兼ソフトウェア開発場所や機器の提供など、業容拡大のための支援を実施した。また、あおもり元気企業チャレンジ助成事業を利用した技術支援や、八戸市内の中小事業者への技術支援を実施した。さらに、福井県(エネルギー)と北海道(寒冷地)のCOC+拠点校(福井大学、室蘭工業大学)を訪問し、他県における学生の地元定着の状況と支援策について調査を行った。また、フランス・ベルギーの技術者を招き、原子力を中心としたエネルギー先進国の事例について講演会を実施し、先進事例を調査するとともに、学生への啓発を行った。

### 1. 福島事故を受けた原子力の安全性について

開催日： 平成28年11月14日(月)

場 所： 八戸工業大学 教養棟旧館211教室

講 師： 江尻 寿延氏(日本原子力産業協会 地域交流部)

### 2. 原子力発電の現状について

開催日： 平成29年1月16日(月)

場 所： 八戸工業大学 教養棟旧館211教室

講 師： 小笠原 和徳氏(東北電力東通原子力発電所 副所長)

### 3. 核燃料再処理の現状と原子力を取り巻く日仏の環境について

開催日： 平成29年1月18日(水)

場 所： 八戸工業大学 教養棟旧館211教室

講 師： ミシェル・グラモン氏(アレバ・ジャパン 技術専門職、課長)

### 4. 核燃料廃棄物長期保存に向けた研究の現状について

開催日： 平成29年3月2日(木)

場 所： 八戸市ユートリー会議室

講 師： クリストフ・ブルゲマン氏(ベルギー原子力研究所 廃棄物処理部部长)





フランス国アレバ社のミシェル・グラモン博士の講演



ベルギー原子力研究所のクリストフ・ブルゲマン氏の講演

### (3) シンポジウム「地域エネルギーの未来を考える」

弘前大学理工学研究科と青森COC+推進機構は、平成28年10月28日(金)、シンポジウム「地域エネルギーの未来を考える」を、アートホテル弘前シティで開催し、教職員、学生、自治体関係者、企業関係者など約200名が参加した。

本シンポジウムは平成28年度に弘前大学理工学部自然エネルギー学科が新設されたことを記念して開催され、佐藤敬弘前大学長の挨拶、三村申吾青森県知事の代理として柏木司青森県中南地域県民局長の挨拶、吉澤篤弘前大学理事(企画担当)による青森COC+事業説明の後、日本エネルギー学会会長の山地憲治氏による基調講演や、青森県・弘前市・平川市のエネルギーに関する取組報告、弘前大学理工学部自然エネルギー学科長の阿布里提教授による講演が行われた。



吉澤篤 弘前大学理事(企画担当)による青森COC+事業説明



山地憲治 日本エネルギー学会会長による基調講演



大学・自治体・企業の関係者が多数参加



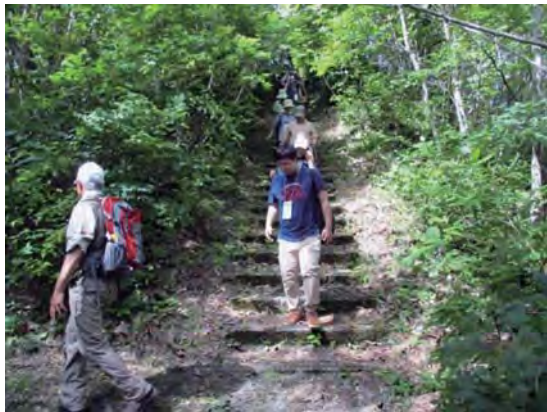
阿布里提 弘前大学理工学部自然エネルギー学科長による講演

## 4. ツーリズム関連プロジェクト

### (1) 「浅虫温泉・海山クアの道」でのドイツ式健康ウォーキングの実施

ヘルスツーリズムのビジネス化に向けた取組の一環として、「浅虫温泉海山クア(健康)の道」でのドイツ式健康ウォーキングを実施した。

浅虫森林公園からサンセットビーチエリアのコースを、心拍測定やヨガ等を取り入れながら歩くもので、平成28年度においては、5月、6月、7月、9月、10月の日曜日に計10回実施した。参加人数は延べ264名(事業協働機関である青森銀行行員向けのウォーキング参加者を含む)で、参加者は平成27年度より103名増加した。



### (2) 学生ガイドサポーター養成研修会・実地研修会

ヘルスツーリズム事業の一環として行っているドイツ式健康ウォーキングを支える学生サポーターを養成するため、平成28年7月22日(金)、青森中央学院大学にて「ドイツ式健康ウォーキング・ガイドサポーター養成研修会」を開催した。日本クアオルト研究機構の事務局長で日本クアオルト研究所所長である芸術工学博士の小関信行氏と、あおもりクア(健康)ガイド協会会長の野宮正宣氏を講師に招き、学生、教職員、一般の計48名が参加した。

また、青森中央学院大学の学生と教員11名が平成28年9月7日(水)から1泊2日でクアオルトウォーキングの先進地である山形県上山市を訪れ、実地研修会を行った。上山市クアオルト推進室長の佐々木慶氏と保健師の高橋ちぐみ氏、学生ガイドサポーター養成研修会でも講師を務めた小関信行氏を講師に招き、上山市の取組について説明を受けた後、2日間にわたりウォーキング体験を実施し、コース設定の基準や、さまざまな仕掛けや仕組み等を学んだ。





### (3) ドイツ式健康ウォーキング「浅虫温泉海山クア(健康)の道」ガイドマップ(コース編)の作成

ドイツ式健康ウォーキングを推進するため、あおもりクア(健康)ガイド協会(会長：野宮正宣)の制作協力により、「浅虫温泉海山クア(健康)の道」を県内外へ周知するためのガイドマップを作成した。

今後は、このマップを「浅虫温泉海山クア(健康)の道」ドイツ式健康ウォーキング参加者やウォーキングに興味がある者に配布し、浅虫温泉地域におけるドイツ式健康ウォーキングを推進するためのツールとして活用する。



### (4) サイクルツーリズムフォーラム・セミナー

雇用創出連携プロジェクト(ツーリズム)の一環として、平成28年11月2日(水)、ホテルサンルート五所川原にて、サイクルツーリズムを推進するためのフォーラムを開催し、自治体職員や旅行業、旅館業、サイクリング協会関係者など約60名が参加した。

フォーラムでは、滋賀県守山市の政策調整部次長兼地方創生推進室長の山形英幸氏が講演を行い、地方創生総合戦略の柱の一つとして掲げている「自転車を軸とした観光振興～ビワイチ」の取組について紹介した。続いてパネルディスカッションが行われ、山形氏をはじめ、株式会社ウイルステージ代表取締役の大谷洋士氏と営業統括部長の京極卓也氏、三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社主任研究員(地域づくりスペシャリスト)の藤原誠二氏、五所川原市サイクリング協会会長の福士寛美氏がパネリストをつとめ、「サイクリングとサステイナブルな地域の振興」について意見が交わされた。

また、平成29年3月18日(土)に、サイクリングガイド養成に向けたセミナーを青森市の新町キューブにて開催し、青森県サイクルツーリズム推進協議会関係者や街歩きガイド、自治体関係者、一般の計23名が参加した。日本サイクリング協会認定のサイクリングガイドである江利山元気氏と花田カズオ氏を講師に招き、青森のサイクリングガイド養成に向けてサイクリングガイドの現状と観光振興についての講演を行った。





## (5) ワーキンググループの開催

雇用創出連携プロジェクト「ツーリズム(観光)関連産業」を全県的に推進するために、プロジェクトマネージャーを座長として、青森・弘前・八戸・むつブロックのリーダー校をメンバーとするワーキンググループを構成し、全県的に推進するための検討を行った。

### 第1回ツーリズム関連産業ワーキンググループ会議

日時： 平成28年12月14日(水) 12:00～13:00

場所： 青森中央学院大学 2号館4階 ミーティングルーム

- 議事： 1. ツーリズム関連産業を全県的取り組みとすることについて  
2. その他(意見交換)

### 第2回ツーリズム関連産業ワーキンググループ会議

日時： 平成29年3月14日(火) 15:30～17:00

場所： 青森国際ホテル 6階 牡丹の間

- 議事： 1. ツーリズム関連産業を全県的取り組みとすることについて  
※青森ブロックから青森中央学院大学の「ツーリズム(観光)関連事業」の取組状況について説明した。  
2. その他(意見交換)



## 【7】 FD・SDの実施

### 1. 青森中央学院大学・青森中央短期大学公開FD・SD研修会

平成28年11月25日(金)、青森ブロックのリーダー校である青森中央学院大学と青森中央短期大学が公開FD・SD研修会を開催し、青森市内の他大学の教職員を含む51名が参加した。研修会では、国内で最も早くから大学間連携や大学と地域との連携事業に取り組んでいる、大学コンソーシアム京都の桂良彦理事・事務局長の講演が行われ、大学コンソーシアム京都の沿革や運営方法等の概要をはじめ、コンソーシアムで取り組んでいるインターンシップや単位互換、京都世界遺産PBL科目、高大連携・接続、地域連携等について説明があった後、地域との連携を進める上での成功事例や課題などについて情報交換を行った。



### 2. 平成28年度弘前大学全学FD

平成29年3月8日(水)、弘前大学総合教育棟206講義室において、「平成28年度弘前大学全学FD」を開催した。

本FDは「弘前大学の三つの方針」等について共通理解を深め意識の統一を図ること及び新たなFDプログラムによる教育改善を提言し、教育改革の先導に資することを目的としたもので、今回はリーダーFDとしての側面から各学部長及び研究科長、教育関係の各委員等、教育の企画・立案に関わる教員や幹部職員を対象に行った。

はじめに、伊藤成治教育担当理事から「三つの方針」の今後の展望について講演があり、次に西村君平COC推進室助教からスタディスキル導入科目に関する分析結果やベンチマーク等の報告があった。引き続き、参加者から教員向けレクチャーの実施や本町地区教員向けFDの開催についての希望、ローカル科目の充実に関する方策等の意見交換があり、有意義な時間となった。



### 3. 八戸高専FD

平成28年4月20日(水)、八戸高専の教職員にCOC/COC+事業の理解を深めてもらう目的で「八戸高専FD」を八戸高専の大会議室で開催し、教職員約70名が参加した。今回のFDでは、COC/COC+事業の概要、平成28年度に実施されるCOC/COC+事業についての説明が行われ、教職員に対してCOC/COC+事業に対する意識付けがなされた大変有意義なFDとなった。

また、平成29年3月には八戸高専の広報誌「高専だより」においてCOC/COC+事業の事業報告を掲載した。教職員のみならず、学生及びその保護者にもCOC/COC+事業を周知することで、認知度向上に寄与した。